

## 北上川のアメリカコハクチョウについて

太田 達也

岩手県北上市北上川珊瑚橋付近には、毎年多くのハクチョウが渡来しています。北上川にハクチョウが初めて渡来したのは昭和61年1月17日でわずか6羽でした。それから4年、多い時には400羽を数え、平成元年3月13日には500羽を越えました。この北上市にはその他のハクチョウ渡来地として新堤と赤石堤があり、この3ヶ所をハクチョウ達は絶えず往復している状況です。この北上川にハクチョウが初渡来してから今日まで、北上川の近くに住む小原宏さん夫妻が、1日2回給じ(餌)を行っており、また地元の人達と「川岸白鳥を育てる会」を結成し熱心に保護活動をしています。

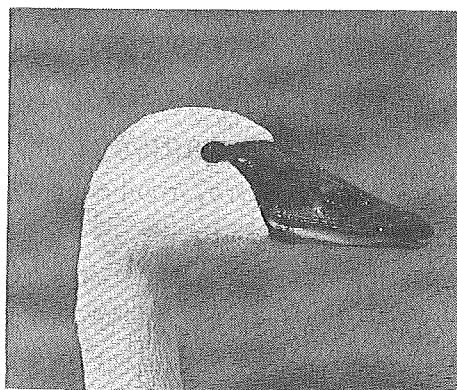
この北上川も63年には、県内第一位のハクチョウ渡来地となり、とても有名になりました。ゲルバー式の珊瑚橋と雄大な山々をバックにハクチョウ達がゆうゆうと泳いだり飛んでいる姿には、誰もが感銘します。まさに自然の恵みの天使とでもいいでしょうか。そのような中、3年前からアメリカコハクチョウが毎年この北上市に渡って来るようになり、最近では県内外からの観察者も多くなってきました。63年には、県内では初めてアメリカコハクチョウ(通称黒ちゃん)とコハクチョウのペアが、2羽の幼鳥を連れて北上川に渡来しました。この個体は、新堤に10月23日に渡来しており、2年連続して渡来したことになりました。また平成元年には、去年2羽の幼鳥を連れてきた黒ちゃんが、今度は4羽の幼鳥を連れて去年と同じ10月23日に新堤に渡来しました。これでこの黒ちゃんは、三年連続して同日に新堤に渡来したことになりました。また63年12月25日には、黒ちゃんが62年に連れてきた幼鳥2羽のうち1羽と思われるアメリカコハクチョウ(成鳥)イチクロが渡来し、平成元年1月23日には、幼鳥のうちもう1羽だったニクロが北上川に渡来したのを確認しました。

この事から、この北上市にアメリカコハクチョウが合計7羽渡来したことになりました。黒ちゃんは、62年には2羽、63年には4羽の幼鳥を連れてきており、また来年も幼鳥を連れてくるものと思われます。また、62年に黒ちゃんの幼鳥として一緒に渡来したイチクロ、ニクロが成鳥となって北上川に渡来したのが確認できました。イチクロがハクチョウとペアをつくっており、来年あたりは幼鳥と共に渡来するのではないかと考えられます。イチクロ・ニクロの行動面は、互いにいつもいっしょに行動し、兄弟の鳴き合い行動もしばしば見られました。その結果イチクロとニクロは兄弟であることが確認できました。

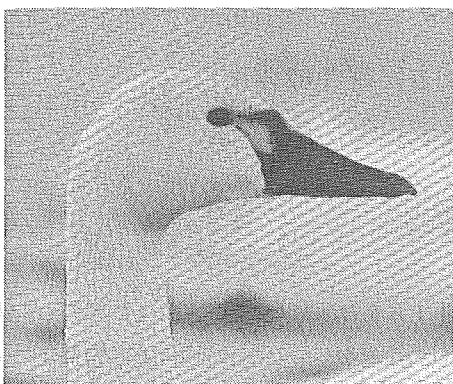
北上市に渡来するアメリカコハクチョウは毎年決まって、新堤には10月23日に渡来し、1月中には北上川に移動しています。また新堤←→北上川間を1月上旬～下旬と4月上旬の往復1回、周期的に移動していることが今までの調査で確認できました。しかし、平成元年は暖冬のせい、黒ちゃん一家は3月下旬になって北上川に渡来し、4月上旬に新堤に移動しました。この毎年渡来しているアメリカコハクチョウの生態・行動・特徴を次のようにまとめてみました。



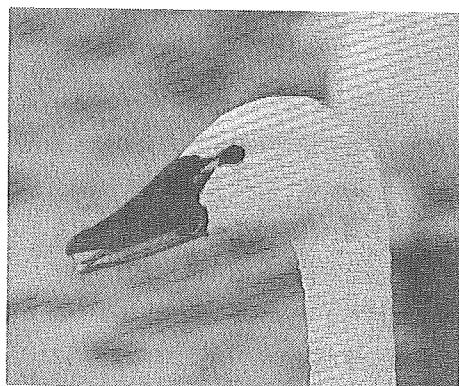
黒ちゃん（昭和62年）



黒ちゃん（平成元年）



イチクロ（平成元年）



ニクロ（平成元年）

### アメリカコハクチョウ調査記録（61年度）

調査地 岩手県北上市新堤  
 羽数 成鳥 1羽  
 初認 昭和61年3月18日  
 終認 昭和61年4月17日

岩手県の中央に位置する北上市に、初めてアメリカコハクチョウが渡来したのは61年3月18日、北上市相去町の新堤という沼で観察されました。新堤は農業用水として使用する沼で、初めてハクチョウが渡来したのは60年12月24日で、わずか3羽でしたが、次第にハクチョウの数も増し、1年目にして待望のアメリカコハクチョウが渡来しました。

61年10月23日には、この年2度目のアメリカコハクチョウが新堤に渡来しました。この個体は3月に渡来した個体とは多数相違点があるため、別個体と思われます。この新堤は、現在では500羽を越える大越冬地となり、日本でも有数のハクチョウ渡来地となりました。

### 〔特 徴〕

アメリカコハクチョウの最大の特徴である目下の小黄色斑がほとんどなく、わずかにうっすらと見えるだけでした。体全体は、コハクチョウより一回り小さい程度で、特に首が細く、頭部から胸部にかけて赤茶色をしています。これは給じ(餌)の際に沼の泥が付着したものと思われます。嘴については、先端下部が丸みを帯びており、口の中の赤色が横一線上にうっすらと見えます。

### 〔行 動〕

性格は比較的小となしく、給じの際は後からえさを食べに行くといった状態です。食欲に自分からえさを取りにゆくのではなく、自分の目の前あたりに蒔かれたえさを食べているようでした。しかし、北帰行近くなると、さすがにエネルギーを蓄積する為でしょうか、オオハクチョウに尾羽を突つかれ、襲われたりしていましたが、えさを必至になって取っていました。普段は数羽のコハクチョウと共に行動しており、北帰行もいっしょに渡去しました。

## アメリカコハクチョウ調査記録 (62年度)

調査地	岩手県北上市珊瑚橋
羽 数	成鳥 1羽
初 認	昭和62年1月8日
終 認	昭和62年3月8日

北上川にハクチョウが初渡来してから、2年目の62年1月8日、初めてアメリカコハクチョウ成鳥1羽が渡来しました。この年新堤では10月23日に、2度目の渡来をしており、どうやらこの個体が移動してきたらしい。また、この個体は61年3月に新堤に渡来した個体とは多数相違点があるため、別個体と思われます。このアメリカコハクチョウ(黒ちゃん)は、後に同月同日に3年連続渡来することになります。この北上川は、新堤に次いで300羽を越える越冬地となり、多くのハクチョウが渡来しました。

### 〔特 徴〕

今年北上川に渡来したアメリカコハクチョウも、61年3月に初渡来したアメリカコハクチョウの嘴と同様、目下の小黄色斑がほとんど見えませんでした。昨年ほうっすらと見えましたが、今年はほぼ真っ黒といった状態でした。また、嘴下部の丸みの部分が昨年より少なく、口の中の赤色もほとんど見えません。体長は、コハクチョウとオオハクチョウの間くらいで、特に頭部から胸部にかけては太く、うっすらと赤茶色がかっていました。体全体はほぼ白で、嘴の黒と体の白のコントラストがくっきり分かれていました。

### 〔行 動〕

オオハクチョウ・コハクチョウと意識せず、どんなハクチョウにもとけ合い、一緒になってえさを食べていました。どちらかと言うとオオハクチョウと共に行動している方が多く、決してこれといったグループの中に入ってはいません。つまり転々とそれぞれのグループを定期的に移動していたわけです。えさも自ら食欲に食べに行った方でした。他のハクチョウとけんかをする行動は見られましたが、比較的少なかったように見えました。

## アメリカコハクチョウ調査記録 (63年度)

調査地 岩手県北上市珊瑚橋  
羽数 成鳥1羽・幼鳥2羽, コハクとペア  
初認 昭和63年1月30日  
終認 昭和63年4月13日

昨年に引き続き、63年度も1月30日に幼鳥2羽とコハクチョウ(ペア)の4羽の家族群が渡来しました。この年、新堤に10月23日に4羽のアメリカコハクチョウの家族群が渡来しており、調査の結果、昨年と同様その個体が北上川に移動したことが明らかになりました。北上市にアメリカコハクチョウがペアを組み、しかも子連れで渡来したのは初めてで、新堤には2年連続して同日に渡来しました。数ヶ月後、調査して行くにつれて、ナキハクチョウではないかと思われる理論ができましたが、山階鳥類研究所での鑑定の結果、この個体はアメリカコハクチョウで、目下に小黄色斑がない特殊な種類と言うことでした。なお、北上川にもこの個体が昨年と同様に同月に移動していることが分かりました。1月30日から4月13日の73日間、この家族は北上川で400羽前後のハクチョウ達と共に越冬しました。

幼鳥も成長し、1~2月は、嘴の色がすっかり黒くなっていなかったのに対し、3月中旬を過ぎるころには、親と同様嘴も黒くなり、体も大分大きくなりました。この4羽の家族群も4月13日には北上川を去り、2日後の4月15日の朝、新堤から数羽のコハクチョウと共に北帰行しました。

### 〔特徴〕

#### アメリカコハクチョウ(成鳥)

昨年渡来した個体とは別個体と思われ、またしてもアメリカコハクチョウの最大の特徴である嘴の小黄色斑がほとんど見当りませんでした。微妙に小さく左右にあるのが確認できました。右側の小黄色斑は、3部構成に分かれており、目の付け根から2ミリくらい細長く斜めになっていて、その後から1ミリほどの点が二つ続いていました。左側の小黄色斑は2部構成で、上部の方はやはり右側と同じく2ミリくらいで、下部が一つ1ミリほどの点があるといった状態でした。

体全体はコハクチョウより一回り大きく、61、62年度の個体同様、頭部から胸部にかけて赤茶色をしていました。嘴は先に述べたように、目下の小黄色斑がわずかに見える程度で、嘴下部の丸みも62年度の個体と同じく、61年度の個体に見られた横一線上の赤色もわずかに見られるだけでした。このことから、去年北上川に渡来した同一個体と確認しました。

#### コハクチョウ

ペアのコハクチョウは、普通のコハクチョウと体長、体形ともほぼ変わらず、嘴の黒色部分が頭部まで達していました。また、ペアになっているアメリカコハクチョウと同様に頭部から胸部にかけて赤茶色をしていました。

#### アメリカコハクチョウ(幼鳥)イチクロ

渡来当時、嘴はほぼ黒っぽく、所々薄赤茶色が少々混ざっていました。体長はコハクチョウくらいで、頭部から胸部にかけては通常の幼鳥に見られる薄茶色をしていました。また、嘴の黄色部分は、目下に2センチほど薄く米粒状にあるだけでした。嘴と頭部の付け根は三角形に角ばっており、嘴下部はほぼ親の特徴と同じでした。3ヶ月後には、この嘴は親と同様に黒くなり、嘴の先端から5センチほどの所に

赤い部分が残りました。ニコロとの比較は、嘴下と目上の白色部分と小黄色斑がひし形状になっている3点です。

#### アメリカコハクチョウ(幼鳥)ニコロ

特徴は先に述べた、イチクロとほぼ同じで、イチクロとの相違点は、目下の小黄色斑が長丸状になっており、目上の白色部分もイチクロに比べて1センチくらいの線状になっています。また、嘴先端から5センチの所の赤色もイチクロよりも薄く小さい。

#### 〔行動〕

北上川に渡来している400羽前後のハクチョウ達は数羽のグループで横一線に並んでいます。このハクチョウ達の後方にいるのがこの4羽の家族群でいつも共に行動していました。渡来した当時幼鳥2羽はどちらかの親にピッタリと付き添って泳いだり、えさを取ったりしていました。

その後月日が経つにつれて、親・幼鳥・親といった具合に決まって半径2メートル間隔の中で、いつも寄り添いあい、幼鳥がえさを取るときには必ずどちらかの親が見張りをして、決して幼鳥と一緒にえさを取る行動は見せませんでした。3月上旬頃には親は幼鳥を一人前と見たのか、幼鳥と離れてえさを取ることも何度かありましたが、やはりこの4羽は、固まっていた方が多かった。また、オオハクチョウに追われたりする事はほとんどありませんでした。

### アメリカコハクチョウ調査記録(平成元年度)

調査地	岩手県北上市北上川珊瑚橋
羽数	成鳥1羽・幼鳥4羽, コハクとペア
初認	平成元年3月28日
終認	平成元年4月4日

昨年幼鳥2羽を連れて渡来したアメリカコハクチョウ(通称黒ちゃん)が今年は去年ペアを組んだコハクチョウと共に、幼鳥4羽を連れて新堤に10月23日渡来しました。これで黒ちゃんは、この新堤に3年連続して渡来したことになります。この家族は今年が暖冬であったせいも、普段なら1月になると新堤に氷が張るため北上川に移動してくるのが、3月下旬になってようやく北上川に家族6羽で現われました。また、昨年の幼鳥イチクロ・ニコロとも合流し3月29日には8羽一緒に泳いでいるのを確認しました。

しかし、4羽の幼鳥の中の1羽(ロククロ)が体調を壊したのか、家族と離れてただじっとしている日が見受けられました。また、4月に入ると川下の方で1羽だけうずくまり、4月4日午後2時頃にはすべてのハクチョウが飛び去ったのですが、ロククロだけは川下の入り江になっている葦の所で1羽だけじっとしていました。

その他のハクチョウ及び黒ちゃん一家は新堤に移動して元気にえさを食べていました。この年北上川には500羽を越え、コブハクチョウも2羽渡来しました。

#### 〔特徴〕

#### アメリカコハクチョウ(成鳥)及びコハクチョウ(ペア)

昨年と同じ個体で(写真鑑定の結果から)黒ちゃんに関しては、嘴の小黄色斑が微妙に小さいことや、その形が左右同じであること及び体長、嘴の曲線が全て似ているから、昨年と同じ個体であることが確

認できました。

### イチクロ

アメリカコハクチョウに見られる目の付け根の小黄色斑が非常に大きく、親のそれより大きい。親と似るものだと思っていましたが、アメリカコハクチョウは親と同じ嘴になるとは限らないことが分かりました。嘴上部分はなめらかにそって、頭部と嘴付け根部分は横一線の上に平になっています。左右の小黄色斑は、2.5センチくらいのひし状になっています。今まで北上市に渡来したアメリカコハクチョウの中で小黄色斑が一番大きい個体です。体長はコハクチョウよりやや大きい程度で親の黒ちゃんと比較すると二回りほど小さい。

### ニクロ

体形、体長とも、北上市に渡来したアメリカコハクチョウの中では一番小さく、コハクチョウほどの大きさです。目の付け根の小黄色斑は親に似ており、左右に2センチほど細長く微妙に見える程度でした。右の方は2部構成になっており、斜めに1センチくらいの長丸が二つあります。色は薄茶色で、親の小黄色斑の色と同じです。左も右の小黄色斑と同じく2部構成になっていますが、下部の1センチほどの長丸が非常に薄く先端に行くほど切れています。嘴の付け根と頭部の接触部分は親と同様V字になっていますが、目の付け根あたりから左右にもう少し小さいV字が両方に見られます。つまり中央に大きなV字、その両端に小V字が付いているといった状態です。

### サンクロ(アメリカコハクチョウ幼鳥)

4羽の中では一番首が小さく、目の回りと嘴下部が特に白い。また、小黄色斑は2センチぐらいで、特に大きく先が二つに分かれています。嘴中央上部はうっすらとこげ茶色になっています。

### ヨンクロ(アメリカコハクチョウ幼鳥)

サンクロ同様首が特に細く、4羽の中で一番小柄です。頭部から胸部にかけて、幼鳥特有の茶色が多。嘴の小黄色斑は、右が2センチぐらいで三つに分かれており下に行くに連れて長くなります。左も2センチぐらいのひし形状になっています。嘴中央上部はうっすらとこげ茶色になっています。

### ゴクロ(アメリカコハクチョウ幼鳥)

4羽の中で一番大きく、幼鳥特有の茶色も少ない。嘴の小黄色斑は、右が2センチ位で、前方が小さく三つに分かれているのが大きな特徴。

嘴中央上部はピンク色で1.5センチ前後の正方形をしています。

### ロククロ(アメリカコハクチョウ幼鳥)

体長はヨンクロとゴクロの間ぐらい、首から胸部にかけて外方は茶色がかかっていますが、内方は白に近い状態です。嘴の小黄色斑は4羽の中で一番小さく横に細い。左右とも1.5センチぐらいの三角形をしており、前方に行くに連れて薄くなり、だんだんと切れています。嘴中央部はほぼピンク色ですがゴクロより小さい。